



常盤平団地



21世紀の森と広場

Z世代を起爆剤に多様な主体が奏でる 常盤平団地エリアのリ・ブランディング



やさしい、
まつど。
matsudo

千葉県松戸市

自治体モデル事業立案の背景

地域の特性

- ・都心への交通アクセス性の高さと豊かな自然を兼ね備えた**住宅都市**
- ・一般市の中で最大の「**人口50万人**」規模
- ・**子ども・子育て支援**が重点施策のひとつ

課題

- ・高度経済成長期に整備された**都市基盤（大規模団地等）の更新**
- ・都心へのアクセス性の高さ等ゆえの **Z世代の市内定着性の低さ**
(市内10高校/市内4大学からの市内就学・就職率：約5%)



Z世代

※概ね1990年代半ばから2010年代に生まれた世代を指し、本事業では、主に高校生・大学生をメインターゲット

- ・市内4大学※の学生中心に**SDGsに興味を持ち、行動できるZ世代**がいる
※聖徳大学、千葉大学園芸学部、日本大学松戸歯学部、流通経済大学。各々と包括協定を締結。
- ・**Z世代の人たちが地域に愛着を持つための仕組みづくり**が必要



常盤平団地エリア



常盤平団地のスターハウス

常盤平団地エリアの世代別構成割合
(令和3年12月時点)

- ・常盤平団地は、URが建設した初期の**関東最大規模団地**の1つ
- ・1960年4月入居開始当時：**時代の最先端エリア**
- ・建設当時からグリーンベルト緑地帯として、**豊かな緑が残る**
- ・現在は…高い高齢化率 **約50%** (市全体約26%)
高い外国人比率 **約10%** (市全体約4%)
Z世代～子育て世代は**エリア内から市内外への流出**

	15歳未満	15-24歳	25-34歳	35-44歳
市内全域(A)	11.3%	9.7%	11.8%	12.9%
常盤平団地エリア(B)	7.7%	8.2%	9.2%	9.9%
市内と団地エリアの割合差	-3.7%	-1.5%	-2.5%	-3.0%

⇒**持続可能なコミュニティ形成**が必要

2030年
あるべき姿

多世代が共にいきいきと思い思いに暮らすことができる やさシティまつど
～つよくしなやかに みんなで松戸の新たな時代を創ろう～

松戸市における自治体SDGsモデル事業の概要

Z世代を起爆剤に多様な主体が奏でる常盤平団地エリアのリ・ブランディング

少子高齢化が進み課題が複合化している常盤平団地エリアで、SDGsネイティブ、デジタルネイティブなZ世代がまちづくりに主体的に関わる仕組みを構築し、エリアのリ・ブランディングを進める。

経済



【課題】

- 地域経済の発展に地域のネットワーク力が活かしきれていない
- Z世代への松戸の魅力の発信が足りていない

【実施の方向性】

IT・コンテンツ産業の推進など、Z世代と市内で特徴的な産業とのマッチングを進め、地域のネットワーク力を高める。

【実施例】

- 多様なワークスタイルの実現
- IT・コンテンツ産業の推進
- 空き家や空きテナントの利活用促進
- 地域農産物の商品開発を中心とした地産地消の促進



新京成電鉄と地元企業が連携した梨ビールの開発

社会



【課題】

- 子どもやZ世代と団地住民との接点が少ない
- 市民活動との共創により地域コミュニティを活性化していく必要がある

【実施の方向性】

常盤平団地が地域に開かれた場所として、子どもやZ世代が、様々な地域の人と関わり、社会課題を自分ごと化しながら、社会で活躍する機会をつくる。

【実施例】

- 子どもの遊びの創出と研究
- Z世代へのボランティア事業のマッチング (Let's体験・プロボノMATSUDO)
- 常盤平団地エリアでのレジデンス事業の検討



常盤平団地のスターハウス

環境



【課題】

- 地域のグリーンインフラの保全と継承が必要
- 脱炭素型・循環社会のまちへの転換

【実施の方向性】

グリーンインフラや農産物の保全と継承を進めながら、Z世代や地域住民にエリアの魅力と価値の理解を促し、脱炭素・循環共生型の社会の実現に貢献する。

【実施例】

- グリーンインフラを活用した交流機会の創出
- グリーンインフラを活用したウェルネストラックの整備検討
- 環境負荷の少ない交通システムへの転換 (シェアサイクルの検討等)

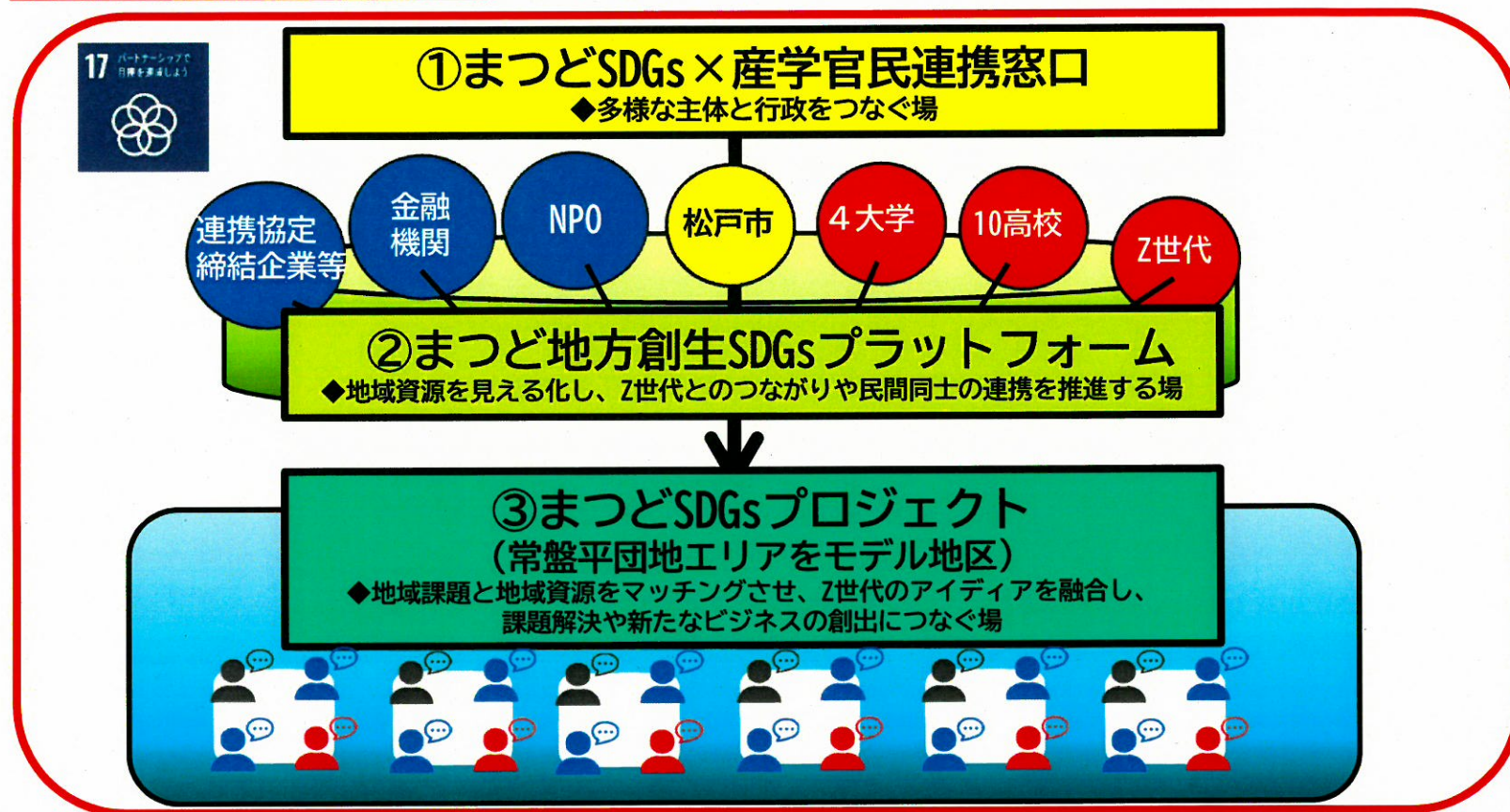


やさシティ、まつど。

三側面をつなぐ統合的な取組-①全体概要

Z世代×多様な主体との共創によるまつどSDGsプロジェクトの推進

「①まつどSDGs×産官民連携窓口」、「②まつど地方創生SDGsプラットフォーム」、「③まつどSDGsプロジェクト」の3つのプロセスを組み合わせ、**Z世代のアイデア**と**市内外の資源が好循環する**、持続可能な地域発展モデルを構築する。



三側面をつなぐ統合的な取組-②3つのステップ

1 まつどSDGs×産学官民連携窓口

市役所内に、「SDGs」「学官連携」「公民連携」の3つの機能を融合した総合窓口を開設する

☞ SDGsやZ世代(学生)をキーワードに、民間企業を中心とした多様な主体と行政をつながりやすくし、社会課題・行政課題の解決につなげる。

2 まつど地方創生SDGsプラットフォーム

民間企業(UR、地域交通機関、連携協定締結企業等)、金融機関、NPO法人、市内4大学、市内10高校、Z世代など市内外の産学官民がつながる「プラットフォーム」を設置する

☞ 松戸市版SDGs登録認証制度等を活用して多様な主体のプラットフォーム参画を促し、地域資源を見える化し、Z世代とのつながりや民間企業同士の連携を推進しやすくする。



ポータルサイトの 立ち上げ

情報共有と発信のハブとなるコンテンツとして、Z世代が運営に関わり、地域資源を理解するきっかけを創る。デジタルコンテンツの活用など、Z世代の意見を反映する。



ビジネス コンテスト開催

社会課題に意識の高いZ世代との接点を創る。市内の様々な調査をオープンデータ化し有効活用する。優秀な提案はプラットフォーム加入企業と実現可能性を検討する。



インターンシップ 制度の推進

Z世代が様々な地域活動を実践していく過程をインターンシップとして位置付けるため、プラットフォーム加入企業等に、Z世代の受入の協力を仰ぐ。



やさシティ、まつど。

三側面をつなぐ統合的な取組-③まつどSDGsプロジェクト

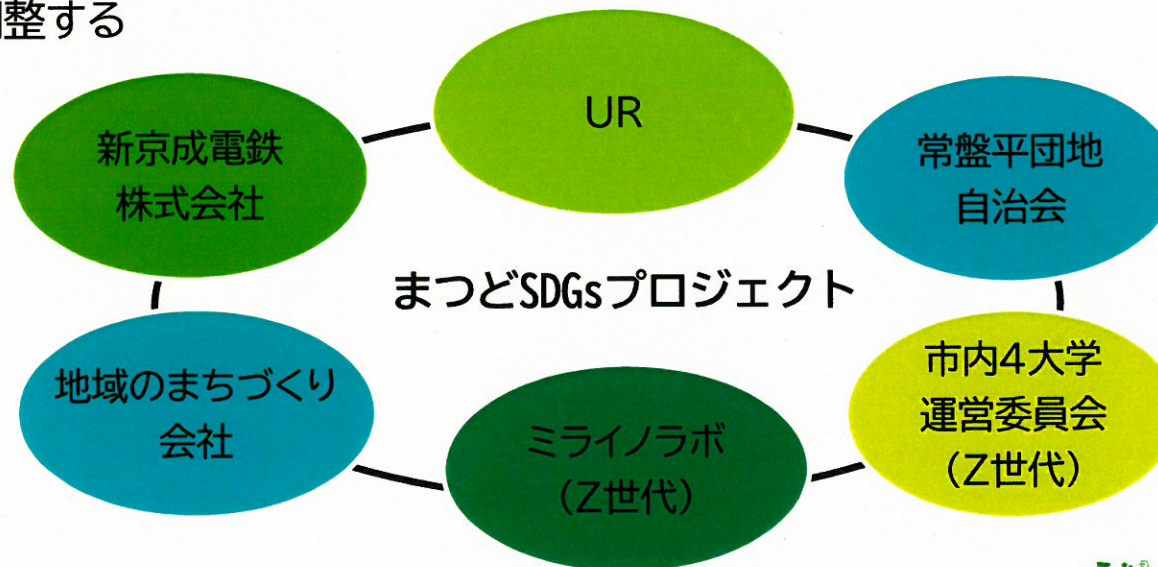
③ まつどSDGsプロジェクト

地域資源と行政課題・社会課題とをマッチングさせ、課題解決を推進していく場。

「常盤平団地エリアのリ・ブランディング」をテーマにZ世代の発想力を活かしながら、様々な課題をプロジェクト化し、社会実験を通じて、社会実装につなげる

◎まつどSDGsプロジェクトの想定参画者

初年度は、UR、常盤平団地自治会、市内4大学運営委員会(Z世代)、ミライノラボ(Z世代)、新京成電鉄株式会社、地域のまちづくり会社等によって構成し、プロジェクト内容によって、参画者を調整する



三側面をつなぐ統合的な取組-④プロジェクト案

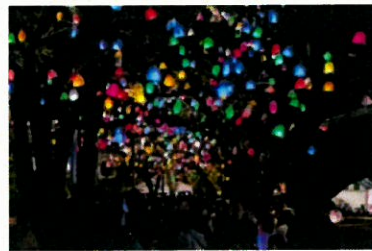
まつどSDGsプロジェクト

地域課題の解決を目指した社会実験に、『まつど地方創生SDGsのキックオフ』、『カーボンニュートラルにつながる循環型社会の実現(社会課題の自分ゴト化)』を目的に加え、常盤平団地自治会による『常盤平団地60周年記念イベント』とも連携した取組を実施する。

1 参加型ライトアップの実施



常盤平団地エリアが「夜は暗い」という課題に、Z世代と地域住民が一緒になって参加型ライトアップを行う。



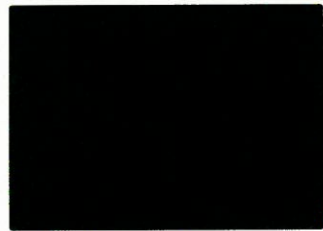
2 地域の農産物の理解や利用の促進



フェアトレード商品や地域農産物を取り扱うキッチンカーの出店やマルシェの開催などを通じ、地域の農産物・特産品への理解や継続的な利用等につなげる。

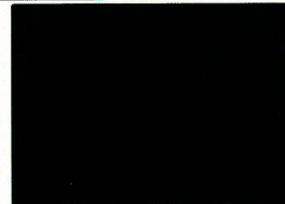


3 発電への理解促進



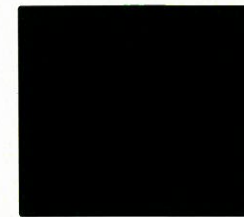
「社会課題の自分ゴト化」をテーマに、自家発電の体験など、行動変容のきっかけを創る。

4 パートナーシップを通じた地域活性化(ワークショップ等)



市内の高校(演劇部)と連携した演劇の開催など、地域の活性化に向けて、様々な団体が参加するワークショップを開催する。

5 高齢者の健康増進・交流促進



地域に点在するグリーンインフラを実感する機会として、常盤平団地内にウェルネストラックを設置する。

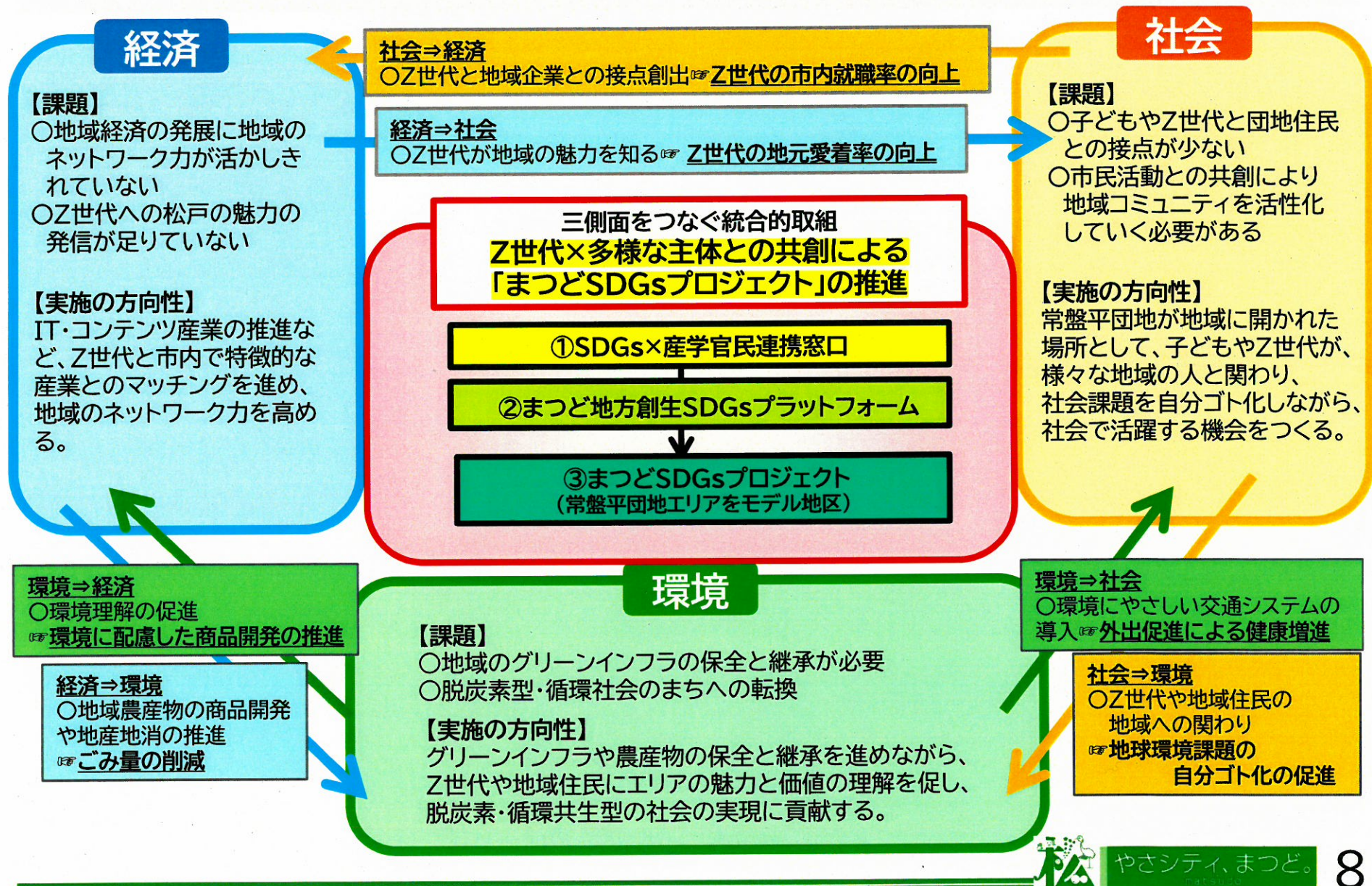
※現時点で実施主体からの提案内容をベースに取組案を記載。

実際には、地域の課題をリサーチし、プロジェクトメンバーと共創しながら実施内容を構築する。

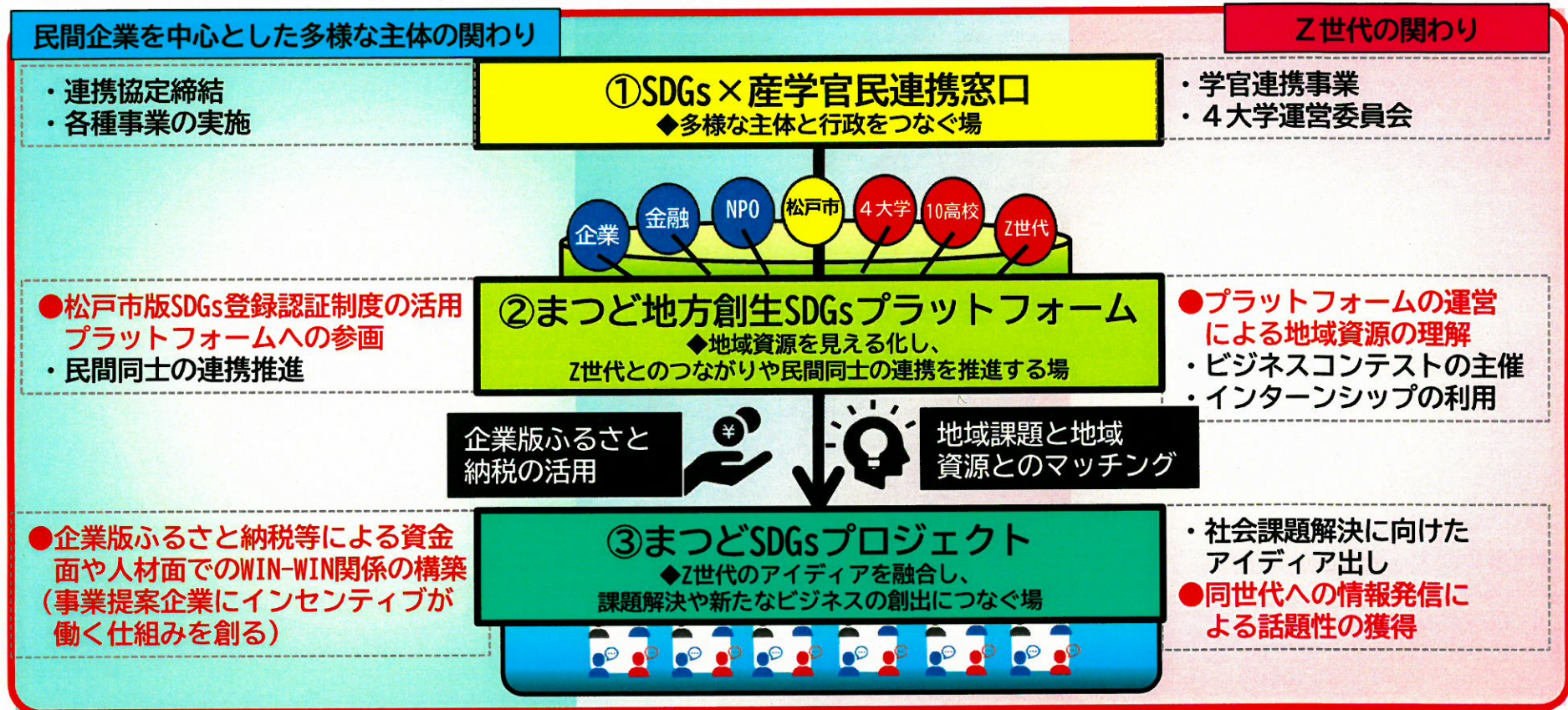


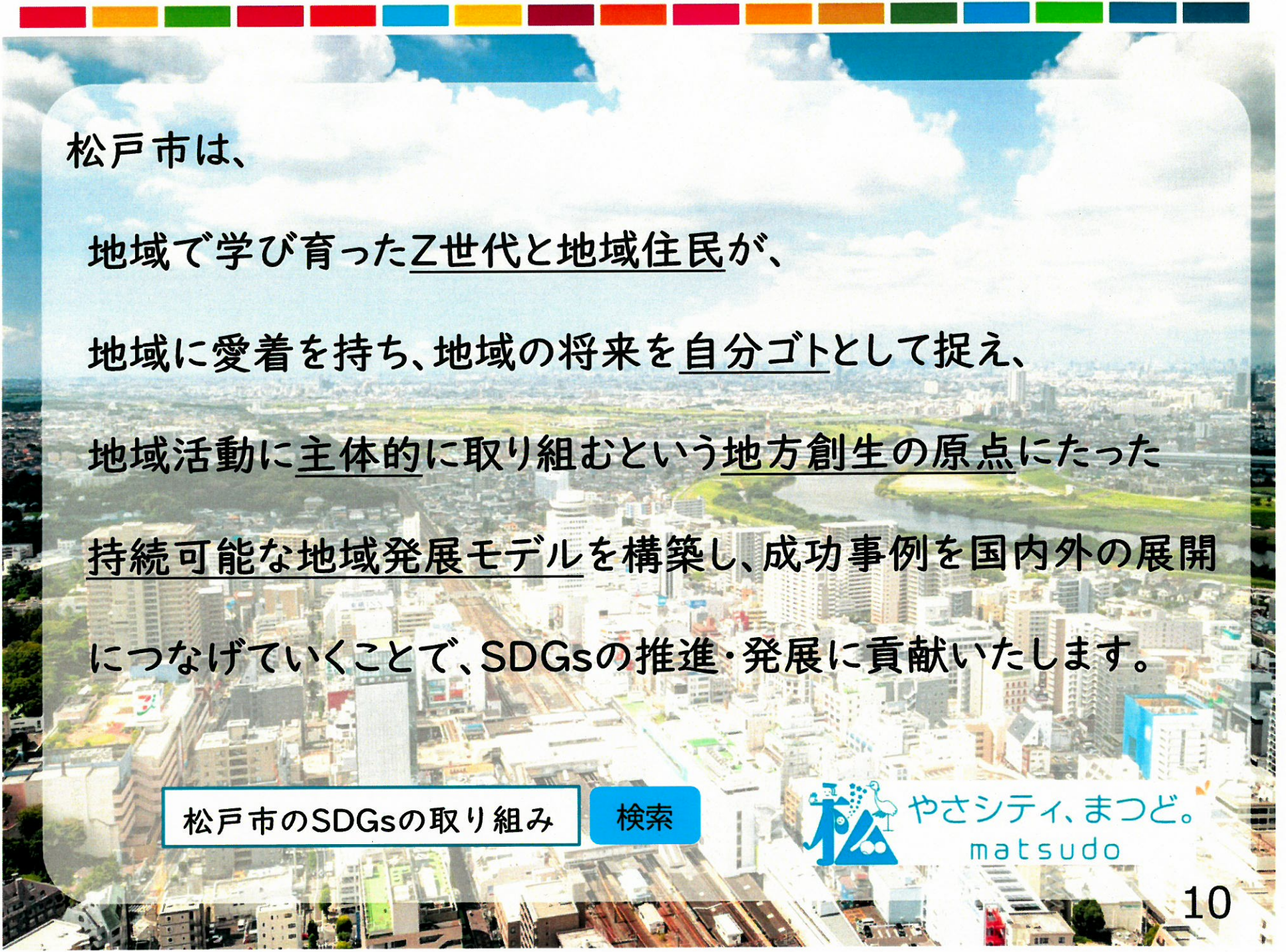
やさシティ、まつど。

経済、社会、環境の各側面の相乗効果



自律的好循環に向けた事業の実施





松戸市は、

地域で学び育ったZ世代と地域住民が、

地域に愛着を持ち、地域の将来を自分ゴトとして捉え、

地域活動に主体的に取り組むという地方創生の原点にたった

持続可能な地域発展モデルを構築し、成功事例を国内外の展開

につなげていくことで、SDGsの推進・発展に貢献いたします。

松戸市のSDGsの取り組み

検索



やさシティ、まつど。
matsudo